

令和2年度 年間教科シラバス

| 中学・高校 | 中 学 | 学年 | 2 年 | コース | 一貫 | | |
|-------|--------------------|-------|-----|---------------------|----|-----|-----|
| 教 科 | 数 学 | | 科 目 | 数 学 | | 単位数 | 5.5 |
| 担当者 | 1組 | 藤井 謙一 | | | | | |
| 教科書 | 改訂版 中学校 数学2 (数研出版) | | 副教材 | STEP演習 中学数学2 (数研出版) | | | |

○学習到達目標

- 1 計算力を身につける。
- 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を養う。
- 3 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。
- 4 定期考査では、6割(6割5分)以上を目標とする。

○教科道徳教育到達目標

定義・定理・公式などの数学のルールに則り、あきらめず根気強く学習することを通して、論理的・客観的に思考する姿勢を養う。同時に真理を導くことにより、少しでも苦手意識を克服し、達成感と自尊感情の醸成を目指す。

○学習方法

- 1 授業でポイントや解説を聞き、グループまたは個人で問題を解く。
- 2 学習アプリ「Qubena」を活用し、問題への理解を深める。
- 3 特に間違えた問題は自分が納得するまでに何度も練習する。
- 4 速くて、正確な計算力を身につけるために、毎日数学に触れること。

○グレード別授業の基準

○指導計画(学習内容・考査等の予定)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 学期 | 月 | | 学期 | 月 | |
|----|---|------------------------|----|----|---------------------------|----|---|-----------|
| 1 | 4 | (休校) | 2 | 8 | 第3章 1次関数 | 3 | 1 | |
| | 5 | (休校) | | 9 | | | 2 | 第6章 確率 |
| | 6 | 第1章 式の計算 ループリック評価① | | 10 | 第4章 図形の性質と合同 ループリック評価③ | | 3 | ループリック評価⑤ |
| | 7 | 第2章 連立方程式 ループリック評価② | | 11 | 第5章 三角形と四角形 | | | 期末考査 |
| | | 期末考査 | | 12 | ループリック評価④ | | | |
| | | | | | 期末考査 | | | |

○評価方法

各学期ごとに、期末考査・ループリック評価を行い、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。
(期末考査50% ループリック評価50%)
※ループリック評価観点表は別紙参照

| 観点 | 比率 | 評価段階 評価項目 | A | B | C | D |
|---------------|-----|--------------------------|--|---------------------------------|-------------------|-------------------|
| | | | | | | |
| 知識及び技能 | 30点 | 日々の課題 | 80%以上 | 65%以上 | 50%以上 | 50%未満 |
| | | まとめテスト | 80%以上 | 65%以上 | 50%以上 | 50%未満 |
| 思考力・判断力・表現力等 | 10点 | 数学的な見方・考え方・表現(自己評価と他者評価) | 例題などの問題に取り組み、正しい答えを導くことができ、更に他者へ教えることも出来る。 | 例題などの問題に取り組み、正しい答えを導くことができる。 | 例題などの問題に取り組む。 | 例題などの問題に取り組まない |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 10点 | 授業準備・復習 | 与えられた課題等の提出が100% | 与えられた課題等の提出が80%以上 | 与えられた課題等の提出が50%以上 | 与えられた課題等の提出が50%未満 |
| | | 取り組む姿勢(自己評価と他者評価) | 各活動に積極的に参加している。更に、理解した上で他者へ教えることが出来る。 | 各活動に積極的に参加している。自ら理解につなげようとしている。 | 授業中の各活動に参加している。 | 授業中の各活動に参加していない。 |